

主体的・対話的で深い学びを通して、

思考力・判断力・表現力等の基礎を高める生活科教育の在り方（3年次）

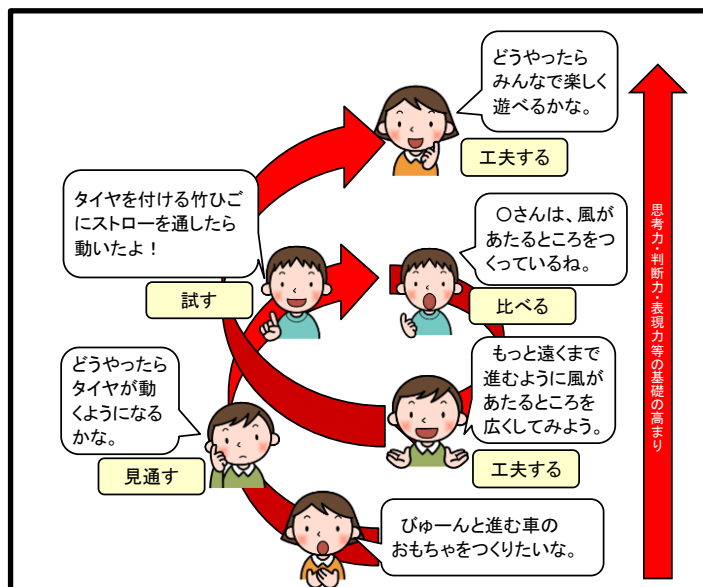
1. 目指す子どもの姿

本研究1・2年次の成果として、子どもが対象について思いや願いをもち、主体的に考えたり工夫したりすることや友達との伝え合いを通して気付きの質が高まった。しかしながら、自分と友達の考えの相違点を意識したり、比較したりといった育成を目指す資質・能力を十分身に付けるまでには至らなかった。

そこで、本年度は「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を通して、「思いや願いをもち」「体験や活動をする」「感じる・考える」「表現する・行為する」「生活に

活かしていく新たな？をもち」の学習過程の中

で、生活科における思考力・判断力・表現力等の基礎を身に付けた子どもの姿を目指す（資料1）。



【資料1 目指す子どもの具体例】

2. 主題に迫る手立て

(1) 試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫

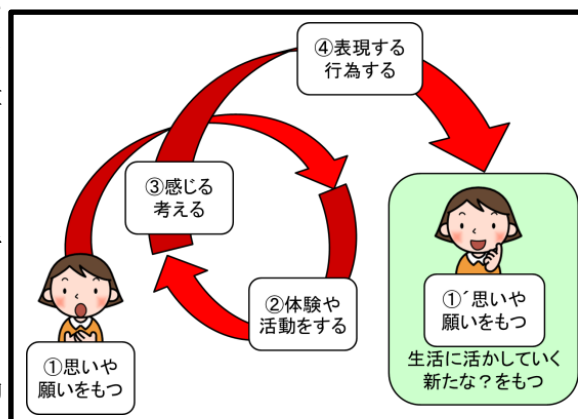
子どもは、遊びを繰り返す中で、育みたい資質、能力が培われていく。生活科では、幼児期に育まれた資質、能力を生かし、さらに伸ばすことができるようにしていく必要がある。

そこで、子どもが試行錯誤して何度も挑戦したり、繰り返し身近な人々、社会及び自然と関わったりすることができるような学習展開にしていく。

具体的には、資料2のように、子どもが試行錯誤や繰り返す活動を行うに当たって、①思いや願いをもち、②活動や体験をする、③感じる・考える、④表現する・行為する、

といったプロセスを学習展開の中に組み込んでいくようにす

る。その中で、「見付ける・比べる・たどる」「試す・見通す・工夫する」などの学習活動を仕組み、気付いたことを基に考え、気付きの質を高めていく。ただし、このプロセスは順序ではなく、子どもの思いや願いによって、入れ替わることもあるし、複数が同時に行われる場合もある。これらプロセスを、子どもの思いや願いによって柔軟に学習展開の中に落とし込むことによって、対象に対する子どもの気付きが関連付けたり、意味付けたり、価値付けられたりし、深い学びにつながっていくと考えられる。



【資料2 生活科の学習プロセス】

(2) 伝え合う活動の工夫

確かな気付き、新たな気付き、関連付けた気付きを生むためには、試行錯誤や対象に繰り返し関わる体験活動を行うと同時に、話したり、書いたり、伝え合ったりなどの様々な表現活動を充実させることが大切になる。

そこで、「伝え合う活動」では、自分が発見したこと、工夫したことについて、「聞いてほしい」「見てほしい」という強い思いをもって、友達や教師、地域の人など多様な人と触れ合い、発信し交流する活動になるように工夫する。具体的には、資料3のように、学習過程のさまざまな場面に応じた手立てを講じて伝え合うようにする。

段階	自分の気付きを自覚する	⇔	小グループや全体で気付きを交流する	⇔	自分の気付きを振り返り とらえ直す
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との会話 ○つぶやきやよさの価値付け ○気付きを可視化する表現活動の設定 ・パワーアップカード ・振り返りカード ○声かけ計画表を基にした声かけ ○意図的指名による気付きの共有化 				<ul style="list-style-type: none"> ○ヒントコーナーの設置 ○グループ編成の工夫 ○キーワードの明確化 ○構造的な板書 ○ICT（写真の活用など） ○自分の気付きを振り返りとらえ直す時間の確保

【資料3 伝え合う活動の工夫の例】

(3) 評価を生かした指導の工夫

① 子どもの学びの過程を見取る表現の場の設定

教師は、子ども一人一人の思いや願い、考えを常に指導に生かすことができるように、表現物や対話内容、行動などから具体的な子どもの姿を見取る。パワーアップカードには、子ども自身が試してみたい工夫を書きおき、その工夫を行った結果を◎・○・△などの記号で記入し、気付いたことや思ったこと等を書くようにする。振り返りカードは、子どもが自分の思いに沿って選べる5種類のカードを用意する。それぞれのカードの色を決めておくことで、教師が子どもの思いを見取る時の手がかりとなるようにする。

② 声かけ計画表の作成

パワーアップカードや振り返りカードから見取ったことを指導に生かすことができるように、声かけ計画表を作成する。あらかじめ子どもの考えやつまづきを予想し、支援内容を考え、言葉かけなどの働きかけをすることで、子どもの思考力・判断力・表現力等の基礎を高めていくことができるようにする。